

都道府県名

長野県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	長野県南安曇郡豊科町立豊科北小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	4	3	3	3	2	21	30
児童数	93	96	107	103	104	101	10	614	

研究の概要

1. 研究主題

生きる力を育む授業の創造
～評価活動を生かした、個の学びを高める授業のあり方～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

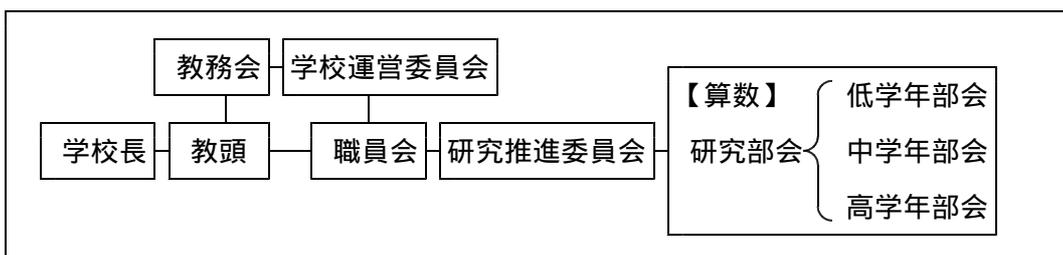
・実施学年 1・2・3・4・5・6年
・教科 算数
これまでの研究成果と児童に対する実態調査の結果から、本校の算数学習の実態として、「関心・意欲・態度」「表現・処理」「知識・理解」の学力面では、比較的よい反面、「数学的な考え方」の学力が他に比べて劣っている傾向にあるため、算数的な考え方を育む授業のあり方を求めて、低学年では「考える力を育て、基礎・基本を身につけていく算数的活動のあり方」中学年では「見方・考え方をのばしていく算数科学習のあり方」高学年では「一人ひとりの学びに応じたコース別学習のあり方」をテーマにして研究に取り組んできた。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 算数的な考え方を育む授業のあり方を求めて 研究の見通し 6月 中学年部会の授業研究会 10月 低学年部会の授業研究会 11月 高学年部会の授業研究会 研究の内容・方法 (1) 素地能力を生かせる学習問題の工夫 (2) 算数的な考え方を高める学習過程のあり方 (3) 評価を生かした指導のあり方</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 算数的な考え方を育む授業のあり方を求めて ～一人ひとりの学びに応じたコース別学習のあり方～ 研究の見通し 全学年で研究に取り組んでいく。 研究の内容・方法 (1) 素地能力を生かせる学習問題の工夫 ・個の学びをとらえ、単元での個に応じた発展・補充問題の工夫 (2) 算数的な考え方を高める学習過程のあり方 ・確かな学力、考える力を育むために、より一人ひとりに応じた指導のあり方を深めていく。 (3) 評価を生かした指導のあり方 ・子どもたちにとっては、自らの学びが高まるように自己評価の具体、教師にとっては、何をどのように評価し指導に生かすか評価の具体を明らかにする。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- 1 素地能力を生かせる学習問題の工夫について
 - (1) 本時につける力と各コースの子どもたちに応じ本時に生かすべき素地能力を明らかにし、学習問題をつくり、素地能力をどのように生かすかを考えた導入場面の構想が大切である。
 - (2) 単元を通して各学習問題が、既習事項を生かしながら問題解決していくことができ、子どもたちの学び方も高まるように、コースに応じた連続性・系統性を工夫したのが有効であった。
 - (3) 子どもたちが興味・関心を持って、追究意欲を持続しながら問題解決していくことができるように、解決の必然性・必要感のある学習問題、教師の導入場面の工夫が必要である。
- 2 算数的な考え方を高める学習過程のあり方について
 - (1) 1時間の授業では、子どもたちの素地能力をとらえ、それぞれの場面でつまずきと手だてを明らかにしておくこと、また、友の考え方や確認・定着・一般化の場面では、互いの考え方を追体験してみるなど個に応じた手だてが有効であった。
 - (2) コースの子どもたちに応じて、教科書の学習内容と発展・復習・総合の学習時間に軽重を掛けていくことが、一人ひとりが確かな学力を育むのに有効であった。
- 3 評価を生かした指導のあり方について
 - (1) 1時間のなかの課題把握の場面、追究の場面、終末の場面と大きく3つの場面での評価活動(子どもの自己評価、教師の評価)を大切に、つまずきと手だてを明らかにして取り組んだことは、子どもの問題解決能力を育むことにつながった。
 - (2) 単元の評価規準から、1時間ごとに評価規準の重点を決め評価の具体を明らかにして、授業を構想したことは、一人ひとりがねらいに達成するために、有効であった。(評価と指導の一体化)

2. 今後の課題

- 1 素地能力を生かせる学習問題の工夫について
個の学びをとらえ、1時間或いは単元での個に応じた発展・補充問題の導入の工夫
- 2 算数的な考え方を高める学習過程のあり方について
確かな学力、考える力を育むために、より一人ひとりに応じた授業展開のあり方を工夫していく。
- 3 評価を生かした指導のあり方について
1時間のなかの課題把握の場面、追究の場面、終末の場面と大きく3つの場面での評価活動(子どもの自己評価、教師の評価)を大切に、つまずきと手だてを明らかにしていく。

学力等把握のための学校としての取組

- ・児童の学習状況の変容を捉えるために、昨年度より県の学力検査、市販の学力検査CRTを実施した。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<p>【平成15年度】 フロンティアスクール授業研究会の開催 6月6日(金)に公開授業を実施 日程 ・共同参観(4学年の少人数算数の公開授業; 4学級公開) ・自由参観(3学年の算数の授業; 4学級公開) ・授業研究会 ・講演会 筑波大学教育学系助教授 清水静海先生 10月7日(火)に低学年部会の校内授業研究会を実施 11月28日(金)に公開授業を実施 日程 ・開会行事 ・研究発表 ・自由参観(6学年のコース別学習の公開授業; 3コース公開) ・共同参観(5学年のコース別学習の公開授業; 4コース公開) ・授業研究会 ・講演会 前信濃教育会事務局長 神田米男先生</p>
--

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 ■ 15年度からの新規校 □ 14年度からの継続校
- 【学校規模】 □ 6学級以下 □ 7～12学級
 □ 13～18学級 ■ 19～24学級
 □ 25学級以上
- 【指導体制】 ■ 少人数指導 □ T・Tによる指導
 □ 一部教科担任制 ■ その他
- 【研究教科】 □ 国語 □ 社会 ■ 算数 □ 理科
 □ 生活 □ 音楽 □ 図画工作 □ 家庭
 □ 体育 □ その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■ 有 □ 無